

- 1 学校教育目標 (社会的自立の為に)「確かな学力と礼儀を身につけ、自ら向上しようとする生徒の育成」
八女市教育施策に則り、地域社会・生徒の実態等をふまえ、中学校教育の目標達成に努める。

<学校像>

- ①活気と笑顔に満ちた規律ある学校 ②美しい環境と安全な学校 ③地域社会から信頼される存在感のある学校

<生徒像>

- ①確かな学力を身に付けた生徒 ②礼儀正しく励まし合う生徒 ③健康で活発な生徒

<教職員像>

- ①教師力(授業力・生徒指導力・学級経営力)を高める教師
②生徒の思いを大切に、意図的・計画的に生徒を伸ばすことのできる教職員
③生徒を育てるために連携し、協調できる教職員

- 2 本年度の主な領域別努力事項 (下線・・・平成27年度～の重点、ゴシックは平成28年度～)

○各教科

- ・各学年における基礎的・基本的学力を明確にして、3年間を段階的に見通す教科経営案を策定・実践する。
- ・授業システムの日常的実践に努める。
(・規律のある授業 ・必然性のある目当ての設定 ・まとめのある授業 ・効果的な交流場面のある授業)
- ・学習評価の充実(指導と評価の一体化) (単元テストの活用) (家庭学習の定着) (週案・シラバスの活用)

○道徳教育

- ・総合、学校行事、特活との関連を図り、実体験を通して「よりよい生き方」を模索させる指導に努める。
- ・移行措置を推進し、A-(2)(4)(主として自分自身に関すること)B-(7)(9)(主として人との関わりに関するこ
と)C-(11)(13)(15)(主として集団や社会との関わりに関すること)D-(22)の重点化を図る。

○特別活動(社会性の育成)

- ・体育会・文化発表会等の学校行事で自主的に行動するリーダーおよびメンバーシップの育成に努める。
- ・生徒会活動を中心に、自分たちで「よりよい方向性・実践」を確認して行う言動(自主規制)を充実する。

○総合的な学習の時間

- ・年間指導計画に則り、キャリア教育の基礎的・汎用的能力に照らして効果的に価値づけて実践する。
(具体的な活動(職場体験学習等)の中では、ねらいを明確化して共有し、その評価を行うこととする。)

○人権・同和教育の推進

- ・人間関係力を高め、互いに支え合う集団づくりに努める。
- ・小中連携を行い、八女市人権・同和教育研究協議会 学校教育部会活動方針を推進する。

○健康・安全教育の推進

- ・防災・健康(薬物乱用・喫煙・エイズ・性と生等)・防犯・安全教育(危機管理)を計画的に実施する。
- ・美しい学校を目指して清掃活動の充実を図るとともに、掲示物の工夫等、環境美化に努める。

○食育 給食指導の推進

- ・給食の時間を充実させ、楽しく食事をすることで人とのつながりを深める。・偏食をなくす。
- ・食の質や量について指導を行い、食について自主自律的な生活が送れるよう指導する。

○生徒指導の充実

- ・「自主規制」の理解と推進及び日常指導の徹底(挨拶、掃除、言葉遣い、校内におけるマナー指導等)
- ・生徒指導の3つの留意点(自己存在感・自己決定・共感的人間関係)を生かした指導の充実。

○特別支援・生徒支援教育

- ・要支援生徒について卒業後を視野に入れた個別支援・指導計画を作成し、保護者との連携を図る。
- ・学習室の生徒の交流・共同学習を計画的・組織的に取り組む。

○進路指導

- ・特別活動・道徳・総合的な学習の時間との関連を図り、系統的な計画のもとに指導体制の確立を図る。

○保護者・地域との連携

- ・接続校との交流・連携に努める。・学校や学年通信を毎月1回発行し、情報提供・公開に努める。・学校開放日や授業参観を設定して開かれた学校づくりを推進する。
・ボランティアティチャーの募集と活用の継続・推進

○情報教育

- ・各教科や総合的な学習の時間において、情報機器を活用して基礎的なプレゼンテーション能力の向上を図り発信の手段として活用できる生徒の育成に資する。・図書室活用の充実拡大を図る。

学校教育目標 (社会的自立の為に) 確かな学力と礼儀を身につけ、自ら向上しようとする生徒の育成

教育課題

- ・基礎的基本的な学力の定着と、学習意欲・向上心の育成
- ・集団や社会で生活するための規範意識・礼儀作法・協調性の育成
- ・特別支援教育の充実 (要配慮生への対応)

経営課題

- ・教育課程の質と量の管理
- ・教職員の指導力 (学習指導・生徒指導・学級経営等) と組織力の向上
- ・家庭・地域並びに関係機関・接続校との連携強化
- ・服務規律の徹底

中期的な教育目標

- ① 授業を大切に、主体的に学習に取り組む生徒の育成
- ② 仲間と共に、意欲的に学校行事に取り組む生徒の育成

経営戦略

中期教育目標達成のために、次の4点から方策を策定する。

- 1 教育環境
 - ①安全で落ち着きのある学習環境の保持
 - ・清掃活動の充実と掲示物等の整理、備品の整備
 - ②家庭・小中連携による学習習慣と規範意識づくり
 - ・小中連携したルール・学習習慣づくり
- 2 組織運営
 - ①組織として効果的に機能するシステムの充実
 - ・職員の新たな力量を育む校務分掌組織の編制
 - ・運営委員会、生徒指導部会、学年会の機能の充実と連携の推進 CAの短期スパンによる改善
 - ・学校評価、学習評価でのPDCAサイクルの充実
 - ・諸会議の効率的な実施と諸委員会・分掌の統廃合
- 3 教育活動
 - ①基礎的知識・技能の習得と自己選択・決定を促す指導技術の工夫と実践及び評価
 - ・教育指導計画・教科経営案・南中シラバスの発信
 - ・規範意識を高める生徒指導の充実
 - ・学校行事 (体育会・文化発表会等) における生徒の主体的活動の推進 (みとおしのある提案)
- 4 人材育成
 - ① 授業研究を中心とする校内研究体制の充実
 - ・整理会を伴う授業研究会と全体会を年3回実施
 - ・接続小学校との交流授業の実施
 - ② 若年教員の育成を機会とする研修の活性化
 - ・互いの授業に学ぶ、自己研鑽意識の醸成
 - ③ 個人研修の推進
 - ・教材研究に裏打ちされた授業充実と工夫改善。
 - ④サービス規律の徹底：サービスは出勤簿の押印から

重点目標

・望ましい授業規律のもと、
意欲的に課題を解決しようとする生徒の育成
 ～自分の考えをまとめ、言語で表現する機会の創出～

教育課程編成の基本方針

重点目標達成のため教育課程を次のように編成する。

1. 教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の関連と調和を図った教育課程

○教科

- ・授業規律の徹底を図る。(準備・あいさつ・聴く・書く・提出物)
- ・自分の考えをまとめ表現する機会を全員に与える授業。
- ・各教科経営案に照らし、主な学習活動と的確な到達目標・評価基準、重点単元が反映した週案計画の充実。
- ・課題を明確に提示し、考える時間と術を与える授業の実践、単元ごとの評価を行うことによる「学力」向上。
- ・的確で家庭学習につながるまとめのある授業の実践。
- ・福岡県および八女市マニフェストの達成

○道徳:行事や総合との関連と「道徳科」移行措置の推進。

○総合的な学習の時間・キャリア学習をテーマとする。

- ・学年総合の時間
 - ・時数；【1年50・2年70・3年70】
 - ・内容；1年；しごと調べ 職場体験学習
 - 2年；人権/平和/環境/歴史学習 (修学旅行)
 - 3年；生き方学習及び上級学校調べ

○特別活動・(1)と(3)を重視し、よりよい人間関係と集団の一員としての役割や責任を果たす生徒を育てる。

- ・学校行事や生徒集会等の活性化 (学校行事を平素の教育活動の総合的な発表の場・授業のまとめと捉える。)

○その他

- ・原則として週29コマで運用する
- ・3年生の授業可能時数を算出の上で、運営的行事に70、学校行事に50程度、その準備のために10程度を学級活動に加える。
- ・計画的・組織的な進路指導の充実 (キャリア教育)
- ・各教科、行事におけるガイダンス機能の充実(みとおし)

○八女市立小・中学校2学期制実施方針に則り、効果的な教育課程の編成につとめる。

経営の重点

- 1 週案による教育課程の管理・質の向上
- 2 授業研究を中心とする校内研究体制の確立 (接続小学校との交流授業等の実践を通して)
- 3 運営委員会/生徒指導部会/学年会等の機能の充実
- 4 学校評価、学習評価でのPDCAサイクルの充実
 - 家庭・小中連携による学習習慣と規範意識づくり (八女市小中連携事業の実践の継続)
 - 教育指導計画・教科経営案・南中シラバスの充実
 - 規範意識や人権感覚を高める生徒指導の充実
 - 体育会・文化発表会等、生徒の主体的活動の推進

研究主題

基礎・基本の学力と、適切な表現方法を身につけさせる学習指導の研究
 ～考えをまとめ、深めようとする活動の工夫を通して～